

# 大阪城東部地区のまちづくりの方向性【概要】

## 1. 大阪城東部地区の現況と動向

### (1) 地区の位置付け

- ・グランドデザイン・大阪(2012年、府市)では、大阪城公園と周辺のにぎわい創出および森之宮周辺の活性化を図ることとしている。
- ・文化・観光・学術・交流機能が集積する東西都市軸上に位置する重要拠点である。
- ・東西都市軸上の東の拠点としての当地区の重要性が高まっている。
- ・当地区での魅力あふれる新都市空間の創造は、大阪全体の発展を牽引する。

### (2) 地区のポテンシャル(外部要因)

- ・良好な交通至便性および、大阪城公園と一体となった、大阪を代表する拠点となり得るポテンシャルを有する。
- ・大阪城公園周辺地区との回遊性向上、大阪城公園の豊かな緑と一体となったまちづくりにより、エリア全体での活性化が可能である。
- ・京橋・OBP・天満橋駅周辺等との相互連携をはかり、エリア全体の活力を創出する。

### (3) 地区内の現況と課題(内部要因)

- ・低・未利用地、鉄道施設等の存在により、高度な都市的利用がなされず、地区のポテンシャルが活かされていない。
- ・大阪城方面へのアクセスや、地区内の少子高齢化、生活利便系の施設不足等の課題解決が必要である。

### (4) これまでのまちづくりの経過

時期	内容
① 2012年 4月	森之宮工場(ごみ焼却工場)の建替計画の中止決定
② 2012年 6月	グランドデザイン・大阪の策定
③ 2014年 12月	府立成人病センター跡地等のまちづくり方針の策定
④ 2016年 7月	大阪城東部地区のまちづくりの方向性(素案)取りまとめ
⑤ 2017年 3月	地区内市有地の有効活用に係るマーケット・リサーチ結果公表
⑥ 2018年 11月	旧府立成人病センター跡地等に関するマーケット・リサーチ結果公表
⑦ 2018年 12月	ごみ焼却工場4工場(森之宮工場等)の都市計画廃止
⑧ 2020年 1月	新大学基本構想(府・市・公立大学法人大阪)の策定
⑨ 2020年 3月	大阪スマートシティ戦略 Ver.1.0 ~e-OSAKAをめざして~の策定

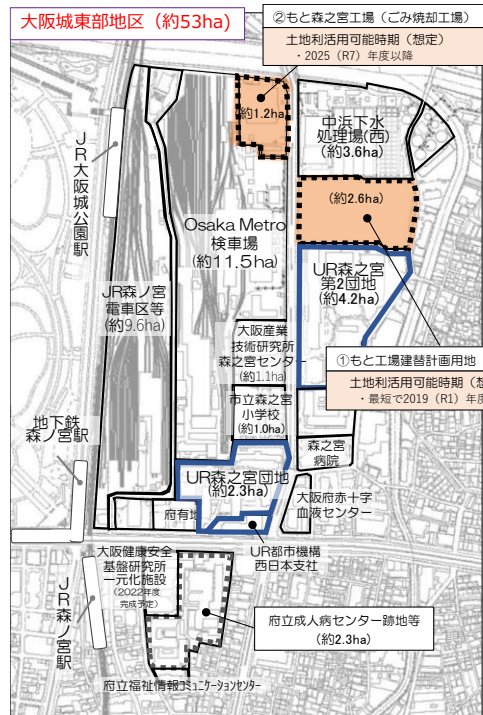
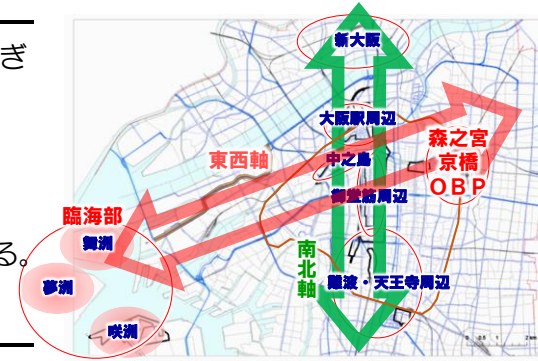
### (5) 地区を取り巻く新たな動向

#### ① 新大学都心キャンパスの立地

- ・2020年1月に府・市・公立大学法人大阪の3者で新大学基本構想を策定した。
  - ⇒2025年度を目途に都心メインキャンパスを森之宮に整備
  - ⇒基幹教育、都市シンクタンク機能や技術インキュベーション機能の拠点他を配置、民間活力導入検討 など
- ・早期に利用可能な土地である「もと建替計画用地」で、森之宮キャンパスの学舎整備を進める方針を府市で決定した。

#### ② 大阪スマートシティ戦略(大阪スマートシティ戦略 Ver.1.0 ~e-OSAKAをめざして~より)

- ・森之宮エリアでは健康医療・環境等の既存資源を活かしたスマートシティの実証・実装フィールドとしての活用を検討している。



## 2. 大阪城東部地区のまちづくりコンセプト及び戦略

コンセプト

### 大学とともに成長するイノベーション・フィールド・シティ

- ・新大学を先導役にして、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能等の集積により、多世代・多様な人が集い、交流する国際色あるまち

コンセプトを具体化する戦略・シナリオ等

### 1. まちにひらかれ、まちとともに成長する「次世代型キャンパスシティ」

- ・まちにひらかれたキャンパスシティ・まちとともに成長するキャンパスシティ

### 2. 健康医療・環境等の既存資源を活かした「スマートシティの実証・実装フィールド」

- ・スマートエネルギー、スマートモビリティ等の実証・実装フィールド
- ・スマートエイジングシティの実証・実装フィールド

### 3. 多様なひと、機能、空間、主体が交流する「クロスオーバーシティ」

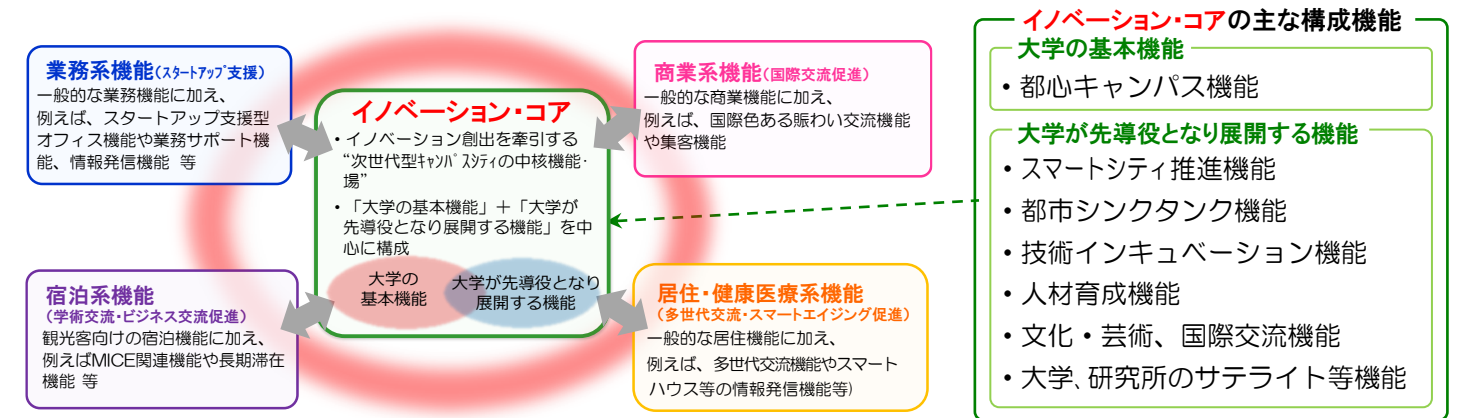
- ・ひと: 多様な世代、国籍、目的の人々(学生、住民、就業者、観光客)が集い交流するまち
- ・機能: 職住遊学などの多様な機能が重層的に集積し、互いに相乗効果をもたらすまち
- ・空間: 大阪城公園の緑や水辺空間と一体的に、公共的空間と民間空間が調和した、デザイン性のあるまち
- ・主体: 産学官民の多様な主体が連携し、エリアマネジメントを展開するまち



## 3. コンセプト及び戦略を受けての展開イメージ

### (1) 次世代型キャンパスシティの展開イメージ

- ① 次世代型キャンパスシティの中核機能・場を「イノベーション・コア」と位置付け
- ② 「イノベーション・コア」は「大学の基本機能」+「大学が先導役となり展開する機能」を中心に構成
- ③ 「イノベーション・コア」を中心に、新たなイノベーションが誘発されるよう多様な機能を集積・連携



### (2) スマートシティの展開イメージ(極力早期に取組を検討したいテーマ例)

- ① **モビリティ**: ・スマートモビリティを活用した主要ターミナル等からの地区内アクセス確保について検討
- ② **ヘルスケア**: ・新大学立地を契機に、森之宮地区で推し進められているスマートエイジング・シティの取組みの拡充を検討
  - ・地域のコミュニティやスマートホスピタルと連携するウェルネススマートシティを市民と共創

### (3) クロスオーバーシティの展開イメージ

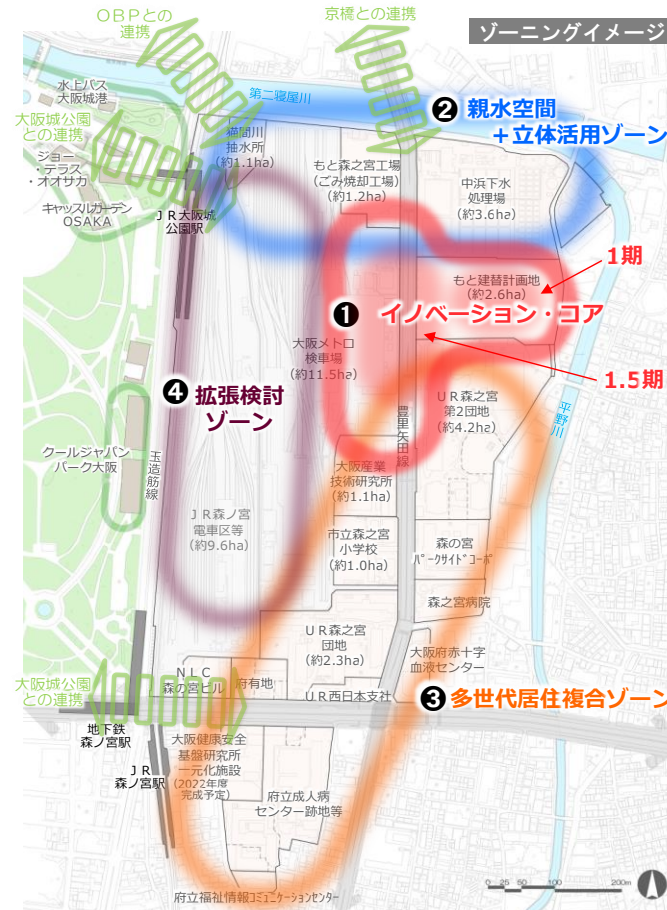
- ① **ひと**: ・住民・就業者だけでなく、大学関係者や観光客など新たな“ひと”の交流を促進
- ② **機能**: ・イノベーション・コアを中心に、多様な機能が交流・連携しイノベーションを誘発
  - ・鉄道施設や下水処理場等の上部利用などにより、重層的な土地利用促進を検討
- ③ **空間**: ・大阪城公園の緑や親水空間と一体的な、緑豊かな空間や水辺空間の形成検討
  - ・大阪城公園全体の眺望及び大阪城天守閣への眺望に配慮した景観形成の検討
  - ・デザインマネジメントの検討(公共的空間と民間空間との調和、民間施設のデザイン性の確保を促す)
- ④ **主体**: ・都市シンクタンク機能の形成検討(イノベーション・コアを有効に機能させるための産学官民連携組織)
  - ・エリアマネジメント組織の形成検討(地区の価値向上のため、地権者を中心に、住民・就業者・学生等も参画する組織)
  - ・エリアマネジメント連絡会の形成検討(OBP・大阪城公園・京橋周辺等のまちづくりと連携して活動するための組織)

### 4. 土地利用・基盤整備計画

(1) 基本的な考え方：充実した交通インフラや大阪城公園に隣接した立地特性を活かし、土地利用転換・機能更新と併せて基盤施設や水辺空間等の整備を進め、東西軸のヒガシの拠点に相応しい土地の高度利用と良好な市街地環境の形成を図る。

#### (2) 土地利用計画 ～ゾーニングの考え方～

- 1 『イノベーション・コアゾーン』**
  - 1期としては、土地の高度利用を図りながら、まちに開かれた新大学の都心キャンパスを整備する。
  - 1.5期として、民間活力を導入し土地の高度利用を図りながら、大学施設関連機能を中心に、国際色ある業務・商業・宿泊・居住などの多様な交流・連携機能等の確保を図る。
- 2 『親水空間+立体活用ゾーン』**
  - 河川との親水性や大阪城公園との一体性を図る。
  - 鉄道施設・下水処理場等の上部利用等により、立体的な土地の高度利用を図る。
- 3 『多世代居住複合ゾーン』**
  - 健康医療機能等と連携し、スマートエイジングシティの取組みを展開しながら、多様な世代が健康で安全に住み続けられる、商業・業務なども含めた住環境の実現を図る。
- 4 『拡張検討ゾーン』**
  - 当面は鉄道施設として継続利用し、将来的には、社会動向や地区内のまちづくりの動向を踏まえ、上部利用範囲の拡大や土地利用転換等も検討する。



#### (3) 基盤整備計画 ～各種動線の考え方～

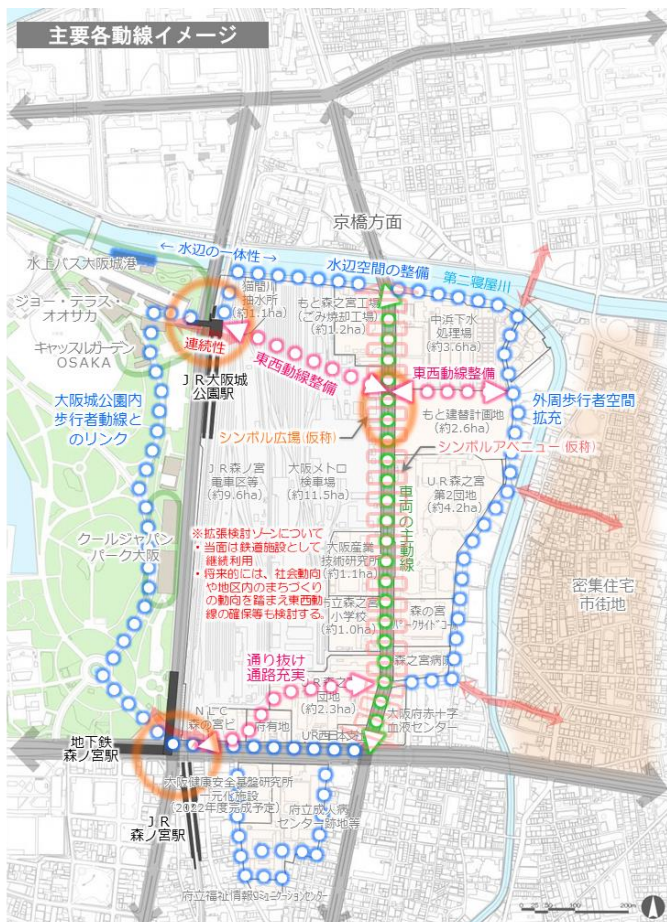
##### <歩行者空間について>

方針：利便性・快適性・安全性に優れた歩行者重視のまちづくり

- 1 利便性の向上**
  - 将来の交流・定住人口の大幅な増加を見据え、現在不足している鉄道駅と地区内とを円滑に繋ぐ歩行者動線の確保を図る。
- 2 快適性の向上**
  - 大阪城公園や河川空間に接する立地を活かし、水・緑の空間を楽しく回遊でき、健康増進にも資する歩行者動線の確保を図る。
- 3 安全性の向上**
  - 歩行者空間の拡充や、密集住宅市街地から大阪城公園へ至る複数の避難ルートの確保など、交通・防災の両面で安全性向上にも資する歩行者動線の確保を図る。

##### <車両動線について>

- 車両動線はシンボルアベニュー（仮称）となる豊里矢田線を基本とし、開発に伴い敷地毎にアクセス動線を確保する。
- スマートモビリティを活用した主要ターミナル等からの地区内アクセス確保について検討する。



### 5. 想定される開発の進め方

※記載する年次はあくまで想定です。確定したものではありません。



【参考】1期・1.5期の開発展開イメージ(例) ※2期・3期の展開イメージについては、順次バージョンアップを図る

- ◆ハード面での整備イメージ**
  - 新大学都心キャンパスの整備
  - 東西動線の整備
- ◆ソフト面での展開イメージ**
  - 大学と地域等との連携(イメージ醸成のためにも大学開所以前の早い段階から順次展開)
  - 例) 既存広場や暫定利用空間も活用し、各学科の特徴を活かした地域連携活動を展開
  - 例) UR団地と連携して、団地居住者と学生との交流活動等を展開



様々な活動が、シンボルアベニューに表出し「次世代型キャンパスシティ」形成の期待を高める

- ◆ハード面での整備イメージ**
  - 1.5期の施設整備
  - 東西動線(鉄道施設上部)整備
  - 動線結節点における広場確保
  - もと森之宮工場の暫定利用
- ◆ソフト面での展開イメージ**
  - 大学と地域等との連携(拡充)
  - 例) シンボル広場を核にしなが、大学と地域との連携活動を拡充
  - イノベーション・コアの本格稼働
  - 例) 可能な分野から随時スマートシティの実証・実装



スマートシティの姿、クロスオーバーシティの姿が広く発信され、民間開発を誘引する

### 6. 2020年度以降の取組みイメージ

対象ゾーン	当面取組みを進める主な内容(◎の項目については2020年度に関係者で構成される検討体制を構築)
全ゾーン共通	◎地区内の土地の高度利用を図る手法の検討(例) 都市再生緊急整備地域における容積緩和の特例措置、都市計画手法等の活用 など ◎エリアマネジメント組織の形成に向けた検討 ・地権者や有識者等を交えた地区内のエリアマネジメント組織(契機となる初動的な取組み：デザインコントロール、エリアプロモーション等) ◎周辺地域と連携したまちづくりの展開の検討
イノベーション・コアゾーン	◎スマートシティ戦略推進のため新大学主体のデータ連携プラットフォームの形成検討 ◎都市ツカツキ機能にかかる検討【府・市・大学法人合同プラットフォーム、(仮称)大阪森之宮北「ツカ」・ホ】 ◎大学のキャンパス整備にかかる民間活力導入手法の検討 ◎東西動線の確保に向けた整備手法等の検討
親水空間+立体活用ゾーン	◎水辺動線の整備手法等の検討 ◎下水道施設の立体的な土地利用の検討
多世代居住複合ゾーン	◎連鎖型都市再生の検討 ◎成人病センター跡地等の活用に向けた検討
拡張検討ゾーン	◎東西動線の確保に向けた整備手法等の検討【再掲】